

杖



(一社) 日本ボーイスカウト神奈川連盟 川崎スカウトクラブ

年頭所感

会長 谷本 通安

日本人が昔から守り、伝え続けてきた「しきたり」神様に感謝し、願うこと。宗教を敬遠しがちな人でも、門松を飾り歳神様を招く目印に、鏡餅をお供えし生命力を授かり、お正月におせち食べ初詣に参拝「あけましておめでとうございます」という言葉から新年は始まります。この言葉は歳神様を家に迎える際に述べる祝福の言葉だと言われています。歳神様とは、新しい年に実りをもたらし人々に命を与えてくれる神様であり、又ご先祖様の集合体とも考えられてきました。正月はそんな神様を迎え祝う行事です。又、初詣も元日の祝いですが歴史は意外に浅く、社寺にお参りする形が広まったのは明治以降でそれ以前は恵方詣で(その年の吉方位にある寺社にお参りする)をする者もいましたが、家で静かに歳神様を迎える習わしでした。因みに初詣は正月に源頼朝が鶴岡八幡宮に参拝したのが始まりと「吾妻鏡」に、治承五年(1181)正月条に正月一日卯の刻(午前8時過ぎ)頼朝が鶴岡若宮にお参り「一日の朝、当宮への奉幣)の日」に定めたこと。この時三浦義澄や畠山重忠、大庭景義らが郎党を引き連れて辻々の警護にあたり頼朝は騎馬だったと、社殿(拝殿)で、良暹(鶴岡八幡宮の暫定的な別当)が出迎え神馬奉納、次に法華経供養が行われ、戻られてから千葉常胤の沙汰によって椀飯(新年大酒宴で沙汰人の有力御家人が費用負担)が行われ、料理に三尺にもなる鯉も供されたと、翌養和二年(1182)の元日条にも一日卯の刻鶴岡宮へお参り神馬一頭奉納、その後宮の前で法華寿量品の法要。原則的に正月元日参拝していたようで「初詣」の一つと考えられます。さて「人生百年時代が幸(高)齢者には呪縛になっていないか」明日は誰にも判りません。我慢せず無理をせず好きなことをする。老化より朗化、幸(高)齢者の魔法の言葉「なんとかなるさ」楽天的に笑う門には福来るで、本年も体を動かしてKSCで大いに楽しみましょう。



今号の内容

年頭所感	会長 谷本通安	1
スマートネスとその先にあるもの	小川芳郎	2-3
日本最古の三角点見学	谷本通安	4
ワールドカップと北澤豪さんとの対談	百木幹雄	5
続々川崎球場	高安征夫	5-6
スカウトかるた読み札篇	小川芳郎	6-7
活動報告		7-8

【スマートネスと、その先にあるもの】

小川 芳郎

『昔は（スカウトはスマートネス）風の言い方があった。この言葉でスカウトの行動規範や制服着用とその覚悟、そしてその効用などを具体的に訓導されていたような気がする。』があなたの場合はどうであったかと、会友の井村さんから示唆に富む問いかけがあったので、振り返って考えてみた。

1992年（昭和27年）川崎5団に入隊したときの制服は、叔父が昭和4年当時、渋谷区千駄ヶ谷で少年団員だったときに着たものを使用した。

川崎5団のネッカチーフは四角形だったので、三角形に折って2枚目の折の一方を少しずらして、下から出ないように巻くのが常套でした。

使い方の指導は三角巾、風呂敷で、両端を本結びで結んでおくと、解く時に片方を上に引っ張るとスッと抜けて早く解くことができると教わりました。一日一善を表わすネッカチーフでもありました。制帽のギャリソンキャップは否応無しにカッコ良いかぶり方を模索させました。手本はアメリカ兵や、日本ジャンボリーに派遣されてきたアメリカのシニアスカウトのキャップのかぶり方でした。長じては御徒町の米軍払い下げ店で上着を買ってきて、襟を取り払って制服にしたり、ギルウェル同期に頼んで横須賀米軍基地のショップでBSA指導者用若草色の夏制服を買ってもらって着てスマートを打ち出していました。

また、私は制服を着た場合には政治活動に参加してはならないとしばしば教えられていました。それで制服制帽を着用することの重みを知りました。小・中学生の時には制服で、なす結びのロープを下げ、片方には短剣ナイフを差して電車に乗っていました。時には背中に手旗を差していたこともあったかと思



います。席には座りませんでした。燕^{つばくら}岳山麓の

中房温泉キャンプにおける非常呼集で、寝る時には制服を枕元にきちんと畳んで置く、靴を整頓しておくことを身をもって指導されました。

毎週の隊集会では始めに点呼の後、スカウトサインをしながら誓いとおきてを皆で唱えました。従って、我々の行動規範はスカウトモットー「そなえよつねに」と、おきての何番と何番に該当するかを常に意識していました。

スカウトは勇敢である。礼儀正しい。従順である。純潔である。人の力になる。つつしみ深い。これの組み合わせが行動の指針でした。これと相まって、スカウトソングの3つの誓（名誉かけて・・・）、光の路（心の光・・・）、永遠のスカウト（死して後もスカウトだ・・・）、むこうのお山（備えよ常にだ・・・）が口の端に出ました。ローバースカウトで活動していた時には、不品行な行いを許さないことを、隊員同士「スカウト的潔癖感」と称して、互いに戒めあいました。隊長の手引きには、「我々を結びつける規律の力」と記されています。昭和27年の私のスカウト登録証には「ボーイスカウト日本連盟のちかいをたて、おきてを守り、全ての規定および方針を遵守しスカウトの名誉を堅持し、最善をつくす者であることを証明する」と表に書かれていました。令和4年度（2020年）の加盟登録証には「私はセーフ・フロム・ハームを推進します」と書かれています。次にスマートネスという言葉が聞かれ始めたのはいつごろかと考えてみたが、釈然としませんでした。スマートネスという言葉は私の入団当時は聞いたことがなく、スマートネスという言葉が着こなす以外の意味があることは当時意識がありませんでした。服装点検！と言えば、その言葉1つで統制が取れたと思います。服装点検！という中に制服を形よく着るという意味も含まれていたと思っています。川崎5団でスマート、スマートネスという言葉が始まったのは、児玉一男団委員長が制服の上着の皺を両脇腹に寄せて畳んでベルトを締めるとスマートに着こなせることを指導してくれた時でした。中学生後半当りからではな

いでしょうか？ 1962年（昭和37年）6月の関東実修所少年課程第4期に入所したときは山田利雄所長でしたが、スマートネスという言葉は聞かれませんでした。

翌年の日本ギルウエル第9期スカウトコースでも聞いてないと思ったので、ウェブサイトで調べると、1967年（昭和42年）日本ギルウエルスカウトコース16期では山田利雄所長と志波隊長から入所式の訓示の中でスマートネスが語られ、内容が記されていました。

1957年（昭和32年）Aids to Scoutmastershipの邦語版「隊長の手引き」が単行本として刊行された辺りからスマートネスという言葉が徐々に使われ始めたと思われます。そして現在日本連盟が発行しているのが2006年（平成18年）Aids to Scoutmastership World Brotherhood Edition 1949を全訳した「隊長の手引き」である。現行の隊長の手引きの第1部スカウトの制服には、制服をスマートに着たり、細かいところまできちんとしていることは、自尊心を向上させる点で大切なことである。そして、諸君が制服を着たり、最後に小粋に帽子を傾けて被るとき、隊長は隊員たちにとって手本であり、彼らはあなたのスマートネスを映し出す鏡であると書いている。

第2部健康と体力に、ドリルという項がある。まず、ドリルとはどのようなものかといえば軍隊の統一動作の教練といってよい。少年の体力と体格を発達させようと考えてドリルをするのであれば、毎日毎日、毎月毎月行えば著しい身体的発達をもたらすことは間違いない。しかし、強いストレスや病気を生じるのはまれではない。ドリルはもっぱら指示をし、それを叩き込むものである。だからドリルは少年たちが自分自身で学ぶように促すものではない。こういうくだりの中で、スマートネスという言葉が3か所出てくる。「はっきりとした規律やスマートネスもないままに、少年たちがいたる所でたろんでいるのを許していることはもっと悪い。このような時には、スマートネス、態度、チーム精神の蓄積の面で少年たち

に何が欠けているかを示す指示だけで十分である。少年たちはそれがいつでもできるようになるのは自分自身次第であり、成果は自分自身に功名心と責任を負うことで得られると分かるのである。スカウティングで我々が必要とするドリルは、消防、救命ボートの出動、橋を架けるような一連の演習の中で行うドリル（集団動作）の方がはるかに好ましい。これらはスマートネス、活発さ、規律を一様に必要とするが、要点はチーム全体の成功のために一人一人の少年が自分自身に任された特定の作業分担を、頭を使って行うことである」と隊長の手引きには書かれている。

昨今スマートネスは幅広く使用されているが、隊長の手引きの中ではスマートネスは日本語に訳されていない。しかし意味は文中の類義語である規律、態度、チーム精神の蓄積、活発さの中にあって機敏性あたりがしっくりくる気がする。

結論をいえば、隊長は規律（¹指示に従う）、機敏性、態度（²技能を習得している）、チーム精神の蓄積（³チームワークで動ける）、活発さ（⁴手順を知っている。覇気がある）について、スカウトに教育する場合は、自ら考え、納得『（左脳の論理と右脳のイメージ（連想）が一致した時に腑に落ちて納得する。これが本当に分かったということ）』して行動することができるように助言することである。スカウトが自分自身に任された特定の作業分担を、頭を使って行う時に必要だからである。その上で、独創的なゲーム（ルールや競争を共通の要素として持っている）やパイオニアリング競争に参加することによって、やる気を駆り



立て、フェアプレイの精神を育て、偏見を打ち破るのになくってはならないいい雰囲気を周囲に広めて、十分に発達した健康的なスカウトになっていくことを期待するのである。写真は年長隊富士野営（1958年）騎

馬戦で最強だった4人の仲間が、全員から弥栄三唱を受けた場面。注¹～注⁴は筆者が加えたもの。

【日本最古の三角点を見学】

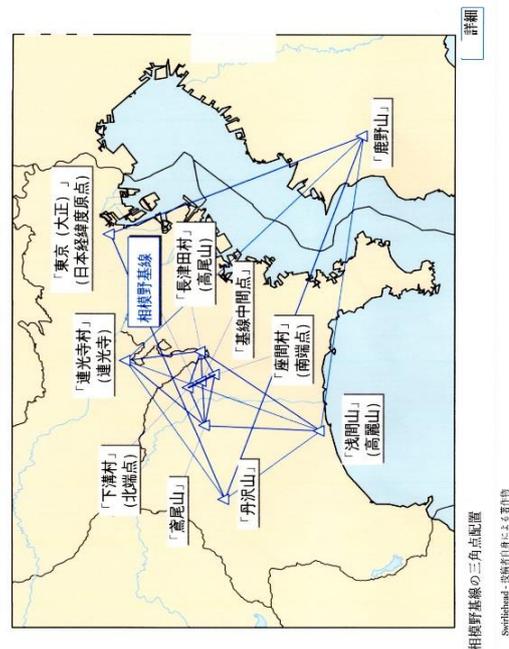
谷本 通安

厚木市の観光MAPで日本最古の一等三角点「鶯尾山」にあることを初めて知り標高234mの現地へ行く。鶯尾山の由来は約1億3千年程前の地層で神奈川県内最古であり「山崩れ土地」をアイヌ語で「トイビオ」と言い、それが「トンビョウ」になり「トビオ」に変化、又天空を旋回する鶯が多くいたことから鶯尾の字が当てられたそうだ。三角点はあらゆる測定の基準として地図作成に利用されるもので国土地理院発行の地図には三角形に点のついた記号で表示されている。

緯度・経度・標高の基準となる点で一等から四等（五等は現在沖縄県の小島神山島・ハテ島の二カ所に現存しているのみ）までに分けられ柱石の大きさが違い（一等18cm角、二等と三等15cm角四等12cm角の御影石（花崗岩）もしくは硬質の岩石の標石を埋設して上面の中央に＋が刻まれている。その中心が三角点の位置で高さになっており方位を見る）日本全国で約10万点あり、約半数は明治・大正時代にされており、一等三角点の約4割は標高500m以下の低地に設置され、重さは約90kg（24貫）あり人夫が背負って山頂まで運んだそうで地図作成や近代測定の進展に大変重要な役割を果たしたのが一等三角点の「鶯尾山」である。明治15年（1882）地形図の整備計画により最古の一つである「相模野基線」北端として一等三角点「下溝村」（現相模原市南区麻溝台、標高97.1m）と、南端として「座間村」（現座間市ひばりが丘、標高74.9m）を結ぶ直線で次の一等三角点は「鶯尾山」と長津田の「高尾山」（飯綱神社）標高100.5m 更にその次は多摩市連光寺の天王森公園内「八坂神社」標高161.7mと大磯の「浅間山」標高180.9m 更に「丹沢山」標高1,567mから「鹿野山」標高352.4mへと広がっていった（相模野基線8つの一等三角点のうち、6カ所は神奈川県内に

あり、残り2つは多摩市と君津市にある）

それ以降大正2年（1913）の択捉基線（北方領土）の設置まで実に31年費やして正確な基線の距離を測定し一つの測定の土台となる15基線を完成させる。因みに最高標高一等三角点は富士山（二等三角点）でも北岳（三等三角点）でもなく「赤石岳」（標高3121m）で、山の高さを測量するためでなくあくまでも地図作成を目的としたからである。現在は電波や光波による距離測定の精度が高く、GPSなどの測量技術の進歩により三角測量は行われなくなっている。GPS衛星からの距離は発信された電波が受信機に到達する時間から求め10km離れた2点間の相対的な位置が数cmの精度が求められるようで三角点に代わって電子基線が役割を果たし、電子基準点は全国に約1,300ヶ所に設置されたGNSS連続観測点がある。この電子基準点が荻野運動公園の片隅に、高さ5mステンレス製ピラーで上部にGNSS衛星からの電波を受信するアンテナ、内部には受信機と通信用機器等が格納されており基礎部には電子基準点付属標と呼ばれる金属標が埋設してあり、トータルステーション等を用いる測量に利用できるようになっている。



相模野基線の三角点配置図

[ワールドカップと北澤豪さんとの対談]

百木 幹雄

昨年末オリンピックを凌ぐ世界の祭典と言われる“サッカーワールドカップ”カタール大会が数々の興奮と感動の中、アルゼンチンの優勝で幕を閉じました。今回の日本代表チームには川崎フロンターレ育ちの10名がおり、川崎市民にとっては心を躍らせ特別な関心を持って応援してきました。中でもドイツ、スペイン戦で大活躍の三苫、田中、両選手は市内の小中高出身でテレビ等でも川崎がピックアップされましたが、故近江さんとJリーグ観戦時の活躍の思い出もあり嬉しい限りでした。コロナウィルスやウクライナ侵攻などで揺れる世界に明るく光輝くワールドカップを目指しての激闘は感動の連続でした。

そこで私の思い出として20年前の北澤選手との対談を記してみました。

ワールドカップ日本での大会後、中原区内の小中学校地域教育委員会が当時“ヴェルディ川崎”現役の北澤選手との対談を主催することになり、スカウト増員を考え委員になった私に校長からいきなりの指名、20名の委員で挙手した訳もなく驚きました。北澤選手は現在、協会参与としてテレビ出演や解説などで活躍中ですが、当時は現役であり一人での講演は苦手に対談形式ならの条件でした。以前地区ラリーを行った大谷戸小学校体育館に200余名の小中学生、父母が集まる中で対談開始。「私がサッカーで学んだこと」の素顔からサッカーの盛んな町田市に生まれ、ドーハの悲劇を体験した日本代表の中心選手として活躍。フランス大会に三浦カズ選手と共に無念の帰国をした心境など、多くの人から聞いて欲しいとのことから度胸を決めて質問すると「カズさんは今でもNOですが私は外されたことで今があると理解している」と語られたことが印象的でした。

会場の多くの小中学生と交流し笑顔で質問に答える北澤さん「プレーはいつも周囲を見ながら前進しゴールに向かうこと」「失敗を恐れずにトライすること」などの話に子供たちも大満足でし

た。私とも色々話をしましたが常に紳士的で、さすが日本代表選手と感心しました。

12月20日フランスに勝ち中東伝統のビシユウトを羽織ったメッシュ選手が誇らしげにW杯をかかげた瞬間、私の頭の中には20年前ブラジル優勝の時、横浜の夜空に舞った数千羽の折鶴の美しさを思い出されました。

永遠のW杯サッカー、4年後サムライブルーのさらなる躍進に栄光あれ！



続々「ありがとう 川崎球場」

高安 征夫

「杖」38・39号と掲載された「ありがとう川崎球場」の最終章として再度掲載させて頂きました。6月7日「杖」39号を届けるため「富士通スタジアム川崎」(元川崎球場)の田中育郎支配人に連絡をとると「伝えたいことがあります6月25日(土)に佐々木信也さん(元高橋ユニオンズ内野手)が来ます」私「えっ本当ですかそれなら「杖」を直接手渡したい」と要請。快諾してくださり当日の午前支配人から電話があり「対面をトークショー前に予定したが他の取材が入ったため終了後になりますのでそのつもりで・・・」と。午後2時30分、今日のゲスト

は佐々木信也さんと日本人初のメジャーリーガー村上雅則さん（元南海）の2名。司会者の軽妙な話術に乗り 88 歳になられた佐々木さんは入団当時の逸話や川崎球場での思い出話、村上さんは法政二高時代から大リーガーへの入団秘話等を懐かしそうに話していました。

突然、司会者が「この中に高橋ユニオンズの試合を直接見たという方がいると聞いていますがどなたでしょうか・・・」。支配人から事前に聞いていたので挙手をして佐々木さんの前に進み二言三言言葉を交わしました。トークショーが終わるや名刺を出す朝日新聞社はじめ雑誌社等数人に囲まれ矢継ぎ早の質問攻め「中学生時代の思い出だけですのでお答えするような事はありません」と。記者と離れると球場職員の方が待っていてくれて佐々木さんの待つ室内に通され対面に。先ずスカウトクラブの名刺を出し自己紹介、佐々木さん「ボーイスカウトをやっているんですか・・・」私「スカウトクラブでは活動の一環として機関誌を発行しています。ぜひこれを一読ください」と「杖」38・39号を手渡しました。サインをもらい記念に写真を撮ってもらって退室しました。感動の一時でしたが、胸の鼓動が収まらないまま家路につきました。夢にも考えていなかった事が今回実現した事は、昨年11月に機関誌「杖」38号の原稿をきっかけにその後起こる奇縁の連続。

その間、多くの人との出会いもあり、ついに最終ゴールのテープを切った感があります。

7月1日付の地域情報誌「タウンニュース」には6月25日のイベントがニュースとして取り上げられその中に私が実名で紹介されているのにはびっくり。知人や以前所属していた元川崎30団の父兄等からも「見ましたよ」の反響もありました。しかし、これも田中支配人の心配りと配慮のお陰と深く感謝申し上げます。

この年になってからの感動を本当にありがとうございました。



かつてお正月には、凧揚げ、双六、カルタ取り、女の子は羽根つきなどで遊びました。小川さんがスカウトカルタ読み札を作られたので、どなたか絵札を書いてももらいますとカルタの完成となります。

[スカウトカルタ読み札篇]

小川 芳郎

あ あこがれの富士特別野営
 い いつも元気カブ隊のモットー
 う 歌いつつ歩もうスカウトの路
 え 笑みを浮かべて進もう隊長の仕事
 お 老いても元気だスカウトクラブ
 か 掛けてうれしい技能帯
 き キムスゲームは観察力を高める
 く 熊ののど輪に月の輪光る
 け 結索法は学んだか
 こ 子供ファーストBS運動
 さ 三指、弥栄
 し しっかり守るセーフ・フロム・ハーム
 す スカウトには世界の仲間
 せ 世界の総長BP卿
 そ そなえよつねに
 た ただ少年の視点で物事を見よボーイマン隊長
 ち ちかいを立てたスカウトは永遠にスカウトだ
 つ 集いて歌おうキャンプファイヤー
 て テント張り水汲みかまどを作り
 と 遠いところと手旗で信号
 な なかよしがビーバースカウトの標語です
 に 人參嫌いをなくすキャンプのカレー
 ぬ 縫い糸でワッペンをつける

ね ネットカチーフ我らの誇り
 の 残すは感謝の心のみ
 は 隼・富士と進級だ
 ひ 人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう
 ふ 増やせ僕らの仲間たち
 へ 辺境へローバーリング
 ほ 星を頼りに進路を決める
 ま まいったな、寸劇の番が近づいた
 み 皆んなの行動きびきびと、考え方も賢明だ
 む 無理なく給水してハイキング
 め 目指せ世界ジャンボリー
 も もやい結びで人助け
 や 山中、那須、高萩の森
 ゆ 勇気を出しておきてを守れ
 よ 良い行いで隣人奉仕
 ら ラストスパート100kmハイク
 り リュック背負ってキャンプへ行こう
 る 瑠璃色光る菊スカウト章
 れ 霊峰天にそびえ五湖その影映す
 ろ ローバースカウト立派な市民の入口だ
 わ 我が班の班呼を決める班会議

活動あれこれ

「宇宙科学研究所(JAXA) 相模原キャンパス見学会」

各種行事がコロナ禍で中止になる中で「対策を十分取れば実施可能」との国の指針が出たため、行事部の企画が実現して9月29日(木) JAXA 見学会が13名の参加者で実施されました。

我が国ロケット第1号の糸川博士が飛ばした「ペンシル型ロケット」から最新技術を駆使した「はやぶさ2」まで年代ごとに展示されていましたし「はやぶさ2」が採取した“りゅうぐうの石”の実物も展示されていてガイドによる丁寧な解説もありました。気象観測衛星も含めて随分多くの衛星を実用化して今も使われていることを知ることが出来ました。屋外には各種の衛星を運んだ実物大のロケット2基も展示されていて大変有意義な見学会でした。



収穫祭「チャックワゴンの風に乗って」

毎年恒例になった収穫祭を10月25日川崎市黒川野外活動センターで開催しました。回を重ねて今年で第10回目となり10年間続いていることになった訳です。皆慣れたもので自分の得意料理にかかる者、手伝う者で進行して時間通り料理が出来上がりました。

「今回のメニュー」

岩手県郷土料理“ひつつみ”(すいとん)
 スペシャルソテー
 手羽先丸焼き
 焼き芋
 フルーツ・コーヒー

昨年のメイン料理は山形県の“いも煮”でしたが今年は佐藤さんの出身地、岩手県の“ひつつみ”でとてもおいしくいただきました。スペシャルソテー



は谷本会長の手によるものでした。特別ゲストに「チャックワゴンの風に乗って」とタイトル名をつけられた、近江さんが写真で参加をされました。

忘れ難き方です。

朝から雲行きが怪しかった天気も調理中は何とかもっていたのが、料理が出来上がる頃には雨が降り出してきて、急遽屋内へ避難をして食事となりました。10年間で雨にあったのは初めての経験でした。センター職員に昼食の出前をしてから参加者14名



が和やかな雰囲気の中で昼食を楽しみました。

食事が終わる頃には雨が上がり、後片付けと並行して例年通りグランドの清掃をして収穫祭の幕を閉じました。

【かわさき市民祭り】奉仕

3年振りに「かわさき市民祭り」が11月4～6日に開催されました。コロナの影響から規模が縮小されて、ステージ演技、パレードも中止になったため会場案内もないだろうと考えていたのが直前になって奉仕依頼があり、急遽都合のつく方

に奉仕をお願いしました。

地元、川崎市内、川崎市と友好関係にある自治体からの出店で物販



が主でしたが天気にも恵まれたため人出も多く、それなりに忙しい毎日でした。佐藤、高安、大谷、長田、市野、谷本さんの方々に奉仕をして頂きました。ご苦労様でした。

【親睦旅行】

今年の親睦旅行は11月20日（日）21日（月）湯河原方面で実施されました。百木夫人のお世話で一昨年同様「敷島館」（私学共済施設）に宿泊して20日に万葉公園の紅葉を散策しました。生憎の小雨でしたがモミジの赤が映え風情がありました。翌日21日は好天気で、和菓子処「味楽庵」で和菓子作りに挑戦しました。皆初めての経験でしたが、ご主人の息子さんが藤沢でBS活動をし

ていたとかで丁寧に指導をしてもらい、素材が良かった為か潜在的に才能があったのか、全員きれいな練り切り菓子が出来上がりました。



午後は日当たりの良いミカン園で「ミカン狩り」を楽しみ、帰途につきました。

編集後記

- ・前号の第40号を特別号にしたこともあり寄稿していただいた方には掲載が遅れて申し訳なく思っています。紙面構成の関係もあり“ジャンボリー物語”は休ませていただきました。

- ・コロナ禍の影響から今年度後半に行事が集中しましたが行事部が頑張ってくれて計画通り事業展開が出来ました。毎月出かけてご迷惑をお掛けしました。

- ・次号、第42号は5月発行予定です。企画案や投稿をお待ちしています。よろしくお願ひします。

- ・タイトル写真は横須賀市野比海岸“水仙ロード”です。一足早く春が来ていました。地元のボランティア団体「水仙の会」が育てています。（渡部）